

レンコンのカルテック施肥例

(10アール当り)

<p>(3～4月、前作の収穫終了後)</p> <p>地力づくり</p>	<p>右記4種を同時に施肥して耕起し、代掻きします。</p> <p>植付け迄に20日以上、なるべく長く日数を置いて下さい。</p> <p>※前作の茎葉残渣も土中で分解・醗酵させます。もし前年に腐敗病が多かった場合にも、ラクトバチルス投入後、湛水日数が充分あれば、フザリウム、ピシウムは減らせますから、田に残渣を残して下さい。</p>	<p>ラクトバチルス 1. 2kg</p> <p>堆厩肥 1トン(～2トン)</p> <p>硫安 60kg</p> <p>(または大豆粕等の有機肥料・複合肥料でN:12kg)</p> <p>※実際の施肥量はN:20kgほど施されている場合が多いのですが、多肥で増収する訳ではありません。</p> <p>※水田としては多肥ですが、植付け時にEC:0.2程度になっていることが大事です。微生物が活動していないと、有機肥料・緩効性肥料でも高ECになっている例がよくあります。肥料濃度が高いと腐敗・褐斑も多く、濃度障害をおこすこともあります。</p> <p>畑のカルシウム(またはカルテックCa粒) 60kg</p> <p>※レンコンの理想土壌pHは、乾燥状態の田で6.0～6.3です。[pH(KC1)で5.5～6.0]これを目安にカルシウム量を増減して下さい。(使用する資材は、どちらでも構いません)乾燥状態で低pHの田も、湛水後は還元状態になり、pH:6.0前後に変わりますが、カルシウム(塩基)が不足していることには変わりありません。</p> <p>※(微生物を殺す石灰窒素は使わないで下さい)</p>
<p>(6月上旬)</p> <p>植付け後40日頃、第1回・追肥</p>	<p>種ハスを植付け(4月)、常時湛水し、約40日後、茎葉維持のための追肥</p> <p><状態によって></p> <p>※立葉は地下茎の先の方向を向いて、一定間隔で並ぶものです。向きや間隔がバラバラになっている場合は土に異常があります。</p>	<p>尿素 10kg</p> <p>※生育の状態によって、施用するか否か決めます。<u>立葉の生長が不足していて、その原因がチッソ不足にある時のみ、尿素的追肥をします。</u></p> <p><u>田水のECが0.4以上の場合、チッソ不足ではなく、土と根の障害です。濃縮酵素液5～10リットルを水口から流して下さい。このほうが強く生長を促進します。</u></p> <p>もし特に高チッソだったり、土から悪臭のあるガスが湧いている場合はラクトバチルス 600g。チッソ過多の場合は、何も追肥しないか、カルテックCa粒 20kgを施します。</p>
<p>(7月上旬)</p> <p>第2回・追肥</p>	<p>芽回しの後、(早生なら開花始め頃)</p> <p>レンコンの形成・肥大のための追肥</p> <p><必須></p> <p>※レンコンの追肥はアゼから散布し、葉に乗らないようにします。田に入って芽や地下茎を踏まないように注意。</p>	<p>尿素 10kg (N:5kg)</p> <p>カルテックCa粒(または畑のカルシウム) 20kg (～40kg)</p> <p>ラクトバチルス 600グラム</p> <p>※根茎部に養分を転流させ、レンコン肥大のもとを作るためには、チッソと同時にカルシウムを追肥します。<u>このカルシウム追肥は、レンコンが揃って丸く肥大・充実し、傷・曲がり少なく、弾力があって固くならず、美味しくなる決め手となります。</u>(特に夏季に日照不足の場合はカルシウムを多く)</p> <p>※夏～秋に微生物も疲労して来ます。また9月以降、収穫前のカラ刈りで落ちる茎葉も分解させる必要があるため、ここでラクトバチルスを補充します。</p>

※追肥は、最も浸透性のよい尿素をお勧めします。カルテック栽培で10kg程度なら、ECはあまり上がりません。



九州(福岡)
6月20日



九州(福岡)
7月26日